大井川

三船御遊

白河院大井川三船の御宴のとき、経信卿遅参せられければ、帝の御気色うるはしからず。漸経信急ぎて川岸に立て、何れの船なりともものせ給へといへば、勅りて音楽の船にのせられ候き。かくて妙曲さまざま奏せられければ、帝をはじめ人々興に入にけり。諸藝に通じ何れも万人の上に立給ふなれば、わざと遅参せられしは、けふ御遊の花美なるべし。